



田辺警察署 交通課企画係
巡査長 山本 沙紀さん

サイン＆サンクス運動は、歩行者が横断歩道を渡る時に手を挙げて、停止した運転者に会釈などで「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えます。歩行者と運転者がお互いに思いやることで、横断する歩行者を守る運動です。

横断歩道を渡る時に車が停

サイン＆サンクス運動

ときは、右・左・右と確認してから、手を挙げて渡る」などの体験により、正しい交通ルールを学びます。

命は一つしかない

小学生を対象にした交通安全教室では、まず「命は一つしかない」ということを教えます。そこから親にもらった大切な命を守るために自分に何ができるかを話します。車道と歩道をイラストで見せて、



「どこを歩かなければならないでしょうか」と質問し、道路には危険がいっぱいあるということを知ってもらいます。また、「歩道がある場合は歩道を、ない場合は道路の右側を歩く」、横断歩道を渡る

保護者や周りの人たちへ

朝の通学時間と夕方の4時から6時頃は、通勤の車が多くなります。また、夕方は暗くなり見通しも悪くなるため、運転者が子どもたちに気付きにくくなります。

そのため保護者の皆さんは、子どもたちに「外は危ない」と教えてあげてください。自分の子どもをよく理解している保護者が一緒に歩き、その子にとって注意が必要な場所を確認してあげてほしいです。

全国ワースト5位

和歌山県は、横断歩道での車の停止率が全国ワースト5位です。車は、歩行者が横断歩道を渡ろうとする時に一時停止しなければ、横断歩行者妨害で違反点数や罰則が科せ

子どもたちが安全に 過ごせるように

車を運転する大人が交通ルールを守ることはもちろんですが、安全のために子どもたちには自分で自分の身を守れるようになってほしいと私たちは考えています。

られます。また、飲酒した後の自転車の運転や、運転中のスマホの使用なども違反となります。みんなの安全を守るため、もう一度交通について考えてみませんか。



田辺警察署 交通課企画係
巡査部長 田中 康裕さん

特集

「見守り続ける。」 これからも

新学期や新生活の時期が近づいてきました。新入生が慣れない道でも安全に通学できるようにするにはどうすればよいか、今回は交通安全に携わる方々にお話を伺いました。

自治振興課 市民生活係（本庁舎5階）
☎0739（26）9911

交通事故の発生状況（人身事故）

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
事故件数	114件	111件	87件	108件
子どもの事故件数	7件	10件	4件	6件

※田辺警察署管内（本宮町を除く田辺市・みなべ町）

子どもの事故は、自転車と車の出会い頭の衝突や、歩行者の飛び出しが多くなっています。



地域ぐるみで子どもたちを守りたい

登校の際には必ず交差点を通る必要があります。開校以来、校長や公民館長、交通指導員、地域の方が毎日交差点に立ち、子どもたちが元気に登校できるよう「おはよう」と声掛けし、安全な通学を見守っています。

また新学期には、安全な交差点の渡り方などを分かりやすく説明した冊子を配布し、学年に応じた交通安全教室を開催しています。

外にも、公開授業を積極的に実施し、多くの関係機関の方に参観してもらうことにも努めています。そうすることで、子どもたちは常に大勢の大人に見守られているという実感を持つことができます。また、保護者から「子どもたちの信号の待ち方が不安」といった声が寄せられると、即座に子どもたちに伝えるなど、地域全体で子どもたちが安全に登校できるよう取り組んでいます。



田辺東部小学校
きみひろ
瀬田 公寛校長



interview ①

子どもたちは地域の宝

過去の痛ましい事件や身近で起こった交通事故などから、秋津町の方々が「シニアパトロール」という見守り団体を立ち上げました。その後、万呂地区でも「シニアパトロール」を結成し、朝夕の見守りを欠かさず行っています。万呂地区で「シニアパトロール」を結成時から子どもたちを毎日見守る向井さん、小学生の保護者である皆瀬さんと会津小学校の亀井校長に、それぞれの思いを語っていただきました。



(左) 皆瀬 雅也さん・(右) 向井 三千雄さん

みんなで見守っていきたい

「子どもたちが毎日元気に登校してほしい。」その思いを胸に、いつも通学路で立って見守ってくれている方々をご存じですか？

地域には交通指導員として、またボランティア活動として様々な形で子どもを見守り、交通安全につなげてくれている方々がいます。

向井さん「通勤の時間帯は（急いでいることもあるのか）車が止まらないことが多いため、子どもたちには車が止まったか確認してから道を渡るように伝えていきます。子どもが飛び出しそうになった時にはランドセルに手をかけて止めたこともありますね」

亀井校長「向井さんのように見守っていただくことで、子どもたちが交通ルールを見て、聞いて学べるのはありがたいです。学校や家庭で教えられるだけでは分かりづらい通学中の危険な箇所を、見守りの方からも伝えていただくことで、実際に現場で学べるので、とても貴重な経験です」

皆瀬さん「目の届かないところを見守ってくれるのは親としても安心で、感謝しています。大人たちに見守られている経験やふれあいが、地元を好きになり、子どもたちが地域に残るきっかけになってもえれば」



会津小学校
よういち
亀井 陽一校長

向井さん「子どもは地域の宝。毎日、その成長を目の当たりにできるのは幸せです。大人になった彼らが、今度は一旦停止してくれた車から手を振ってくれることもあります。」

大したことをしているつもりはないんです。子どもたちの通学時間帯に外に出るだけでもいいので、皆さんも見守りを生活の一部として、子どもたちを見守る目が少しでも増えてほしいです」

interview ②

未来を奪わないために



田辺市交通指導員会 田辺支部
かおる
山本 馨さん

毎月1日と15日には、子どもたちの安全確保のために登校の見守りを行うなど、交通指導員としての活動を欠かさず行っている山本さん。子どもたちの交通安全を守っていただくために必要な心掛けや指導員の課題について語っていただきました。

交通指導員を始めて29年、私が所属する東部小隊は磯間、学園、新万、新庄地区を中心に全25名で活動しています。指導員に任命された当初約130名ほどいたと思いますが、現在は84名まで減少。全員が必ず来る訳ではないため、見守れる範囲は限られて

います。私が見守りを行っている新万地区では指導員の減少により目が行き届いていない場所もあり、地域の交通安全を守っていく上で大きな課題となっています。

事故を防ぐためには交通ルールを守ることが基本ですが、初めて通学する新入生にはしばらく保護者が同行し、交通ルールを教えてあげてほしいです。そうすることで私たちの目が行き届かない場所でも気を付けてもらえます。

今もこうして指導員を続けられているのは、自分の責任感や使命感からではないでしょうか。交通事故は被害者が辛いのはもちろんですが、意図せず子どもが飛び出すことがあれば、加害者も辛い気持ちになると思います。そんな悲劇を起こしてはならないという責任感が私を動かしているのだと思います。

私たちの活動が、これから未来を作っていく子どもたちの安全の一助になれば幸いです。